

地域共同テクノセンターの活動記録

鶴岡高専シーズ集(研究者紹介)の発行

シーズ集とは、本校で教育研究に活躍する全教員、技術職員の教育研究分野や略歴などを簡潔に紹介する冊子です。学外の方々へ、本校教職員の技術シーズを広く紹介する為に毎年更新発行しています(鶴岡高専ホームページにもPDF掲載)。地域のニーズと高専シーズのマッチングを担う高専所属研究者・技術者のPR誌です。



2011年度の研究シーズ集(研究者紹介)

出前講座を実施

出前講座とは、企業の要望に応え、鶴岡高専の教員が依頼元に赴いて最新の研究・技術情報を講義するものです。

今年7月14日、総合科学科・鈴木建二特任教授が市内企業に出向き、現在時事問題にもなっております「放射線のお話」をテーマに約2時間の講義を行いました。

放射線に関する基礎知識から、ニュースでよく耳にするシーベルトやベクレルなどの単位、また放射線の歴史やその構造などについてお話ししました。

メディアで流れる「放射線」の問題に対して、私たち自身が正しい知識を持つことが大事です。

今回80名程の技術者・社員の方々から聴講頂き、あらためて放射線のしくみについて学んで頂いた講義となりました。



企業技術者に講義する鈴木建二特任教授

市民サロンを実施

市民サロンは、鶴岡高専技術振興会との共催により本校教員と地域研究機関研究者・技術者による専門分野の最新情報を市民の方に解りやすく解説するもので、毎年3回行っています。

7月に行われた第1講の市民サロンでは、聴講者数が90人と過去最高の参加者数を記録いたしました。

3月11日の東日本大震災を受け、身近なところで何ができるかをあらためて考えようと、今回は「震災 庄内の活

断層と身近な地震対策」というテーマを設定いたしました。多くの方々から関心を寄せて頂き、参加頂けたことは非常に意義のあることでした。

ここ庄内でも大きな震災が起こる可能性が高いこと、「もしも」の時に備える心構え・震災教育など、事例を使った分かりやすい講座で好評頂きました。



大勢の聴講者にスライドで講演する澤祥教授

鶴岡高専卒業生に対するリカレント教育を実施

「リカレントスクール」とは、本校を卒業した技術者を主に対象として、母校の持つ最先端の研究を習得する機会を設け、企業の研究推進に役立ててもらおうとするもので、最新の研究や情報へのアクセス、企業の技術課題の相談や基礎的な学習に触れたいなどの要望にお応えできるよう、技術者と鶴岡高専との情報交換・交流の場としています。

今年、本校・加藤靖校長から「～検索エンジンの将来の可能性～ 最新ICT技術活用例：生活習慣病を改善する為のハープ選択支援システム」、本校卒業生でもある東北イートップ開発担当・安達秀人氏から「私の仕事と企画・開発中の業務紹介」という演目で講演頂きました。

技術相談交流会では、企業からの技術相談に高専の教員も交え、様々な分野からの意見交換が行われました。



講演を行い参加者から質問を受ける加藤靖校長

鶴岡高専オープンラボを実施

8月23日(火) 鶴岡高専オープンラボを開催いたしました。企業技術者を本校の研究室に招き、最新研究情報の紹介や設備・装置の体験使用を行いつつ意見交換する企画で、共同研究・受託研究・技術相談等の促進も視野に入れています。今年13社19名の企業の方々からご訪問頂き、5研究室(機械工学科・増山研究室、同科・矢吹研究室、電気電子工学科



研究室にて参加者へ研究説明を行う三村泰成准教授

・神田研究室、制御情報工学科・三村研究室、物質工学科・三上研究室)に分かれ見学を行いました。

各研究室では研究内容にとどまらず、企業の現場での技術・機器扱い等の相談もあるなど、活発な意見交換の場となりました。また研究室見学終了後の交流会では、5研究室以外の教員やパネル展示・説明などを行い、広く鶴岡高専を知って頂く交流ができました。

様々な分野からの技術相談

「技術相談」とは、高専の教員が民間企業をはじめとする外部の機関から研究・開発上の相談に応じたり、情報提供を通して技術支援を行うものです。

この技術相談のやりとりから共同研究・受託研究が展開される事例も多く、本校が外部機関に対して行う研究協力の基盤的活動とも言えます。

平成23年度では4月～9月までの期間で、18件の技術相談を受け、鶴岡高専の様々な分野の教員から企業へアドバイスをを行いました。

イノベーション・ジャパン2011への出展

9月21日(水)～9月22日(木) 東京国際フォーラムで開催された「イノベーション・ジャパン2011-大学見本市」(主催：独立行政法人 科学技術振興機構、独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)に本校からは、電気電子工学科・佐藤淳研究室が出展。「林地残材自動回収システムの開発」を紹介しました。このイベントは、日本国内での研究成果である「知」を産業界に発信し、イノベーションを図ることを目的としており、今年で8回目となります。ブースには多くの企業関係者の方が訪れ賑わいました。



本校ブースにて来場者に説明する佐藤淳教授

さかた産業フェア2011への出展

10月1日(土)・2(日)の2日間、「さかた産業フェア」が酒田市体育館で「庄内環境産業展」と同時開催されました。酒田周辺の企業・事業所など30社に加え、酒田工業高校、県立産業技術短期大学校庄内校、本校の3校が参加。

本校からは、内山研究室(電気電子工学科)の「酸化薄膜を利用した燃料電池の開発」他のパネル展示と燃料電池ミニ自動車(学習用モデル)によるデモンストレーション、佐藤(貴)・森永研究室(物質工学科)からは「自分で電気を作ってみよう」というテーマで自転車発電、手回し発電の体験コーナーを設けました。来場者数は約4,000人にも



本校ブースの『自転車発電』体験する親子連れ

つるおか工業博覧会2011への出展

10月15日(土)・16日(日)の2日間に渡り「つるおか工業博覧会」が開催されました。(来場者数5,500人)

今回は、「緑の鶴岡 農林水産まつり」と同時開催ということで、時々雨に見舞われる天気ではありましたが、たくさんの方々からご来場頂きました。

本校ブースでは1日目と2日目を入れ替えにし、合計6研究室(吉木研究室・竹村研究室・神田研究室・宍戸研究室・戸嶋研究室・教育研究技術支援センター)が参加。研究室などの学生もブース運営に携わり「光る手作りフラワー」や「電気分解で着色! オリジナルキーホルダー」等小学生や親子連れを中心に多くの方から体験して頂きました。

ピーク時には長い行列をつくるなど、博覧会の中でも大変人気の高いブースとして集客・動員にも貢献。興味を持たれた市民の方には学校資料を配るなど、子供たちへ「ものづくり」の楽しさを通して鶴岡高専のPRができました。



大盛況の鶴岡高専ブース